



染付色彩輪花尺皿 径30/高さ5cm

藤田佳三展 安穩安南

2024年6月8日(土) ~ 15日(土)

作家在廊日 6月8日

GALLERY  
うつわノート

料金後納  
ゆうメール



灰釉鉄彩蓮弁文壺 径26/高さ30.5cm

## 藤田佳三展 安穩安南

2024年6月8日(土)～15日(土) 会期中無休

作家在廊日 6月8日 11:00～18:00 最終日は17時迄  
ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6



地図はこちら

1963年 京都市生まれ  
1982年 京都市銅駝美術工芸高校卒業  
1986年 京都芸術短期大学陶芸専攻科修了  
1987年 小川文齋氏に師事  
1990年 兵庫県丹波立杭にて修行  
1993年 京都府亀岡市にて独立開窯  
2024年 現在、同地にて制作

柔らかな白に赤や緑のリズミカルな細い線で描かれた<sup>つが</sup>番いの野鳥やザクロ。この伸びやかな線は「つけたて」と呼ばれる下書き無しで運筆にまかせ器に直接絵を描くことで生まれます。一尺の器体は輪花状に成形され寿ぎの席を彩ります(表紙)。また蓮弁を上下に貼花し、胴部に抽象化した蓮の花を線彫りし鉄彩を施した壺。灰釉による泣きと呼ばれる滲みが全体に柔らかさを与えています(宛名面)。どちらもベトナム(安南)の古陶磁に触発されたものですが、敢えて簡素なタッチで民窯の風合いを捉えようとご自身で咀嚼した表現になっています。当時中国景德鎮で焼かれた精緻な絵付けとは異なり、ベトナム古陶磁の曖昧な文様は、釉薬と融け合って器体と分離せず一体感があることが、むしろ焼き物らしいと藤田さんは考えています。藤田佳三さんは1963年京都市生まれ。現在、京都府亀岡市で染付や赤絵の器を制作されています。高校以来40年を超える経歴ですが、尊大になることなく京都ならではの問屋仕事をこなし、食器を中心にした作家として活動されてきました。藤田さんの器は、陶土に白化粧を施した後に絵を描くことで、柔らかな印象の器に仕立ているのが特徴的です。また絵付けにおいては、安南手と呼ばれる滲んだ染付、宋赤絵のように余白のある絵柄など、研ぎ澄まし過ぎない洒落なタッチが、親近感と呼び起こすのです。弊社で5回目を迎える藤田佳三さんの安穩無事に心安らぐ安南の器をどうぞご覧ください。店主